

笑顔燦燦



八代小学校だより

表

SNSについて考える

大阪市で行方不明になっていた小6女兒は、430キロも離れた栃木県に住む35歳男の自宅から逃げ出し、安全が確認されました。女兒が無事親元に戻れたことに安堵する一方で、大阪の小6女兒と35歳の男との接点が、会員制交流サイト（SNS）であったことに、人ごとではない恐ろしさを感じました。

そこで、家族が集うことが多いこの冬休みに向けて、SNSについて考えてみました。

ネット社会は、子供たちのすぐ近くに・・・

熊本市教育委員会が実施した調査では、ネットを1日に3時間以上利用する中高生の65％が面識のない人とLINEなどを使って繋がりを持ち、20％以上が実際にあったことがあると回答していました。

では、小学生は大丈夫でしょうか？ 八代管内の昨年度のデータでは、確かにスマートフォンの保有率は、中学生ほど高くはありませんが、PCやゲーム機等でインターネットに接続できる状態にある小学生の割合は、高学年では8割を超え、中学生とほぼ変わりません。私たち大人が思っている以上にネット社会は子供たちの近くに存在しているようです。まさに今回の事件は、八代の小学生にとっても、「特別な事例ではない」と言えるのではないのでしょうか。

思いが伝わらない・・・

以前、お母さんの同士のLINE上のトラブルの相談を受けたことがありました。仲よしグループでLINEグループを作られたそうですが、そこでの言葉の行き違いから関係が悪くなり、それぞれの発言に対して暗々たる気持ちが積もってしまったようです。結局は、互いに顔を合わせて話し合う場を設定することで解決できたのですが、相手の表情が見えず、しかも発言内容の一部だけが切り取られて残っていくネット上での会話の怖さを実感しました。大人でもこのようなトラブルが起きます。ましてや表現力が発達途上の子供たちでは、その危険性は更に高くなるようで、八代管内の小学校でも実際にLINE上でのトラブルが発生しています。



相手が見えない・・・



「見ず知らずの人だからこそ、相談できることもある。」以前、友人との会話のなかで聞いた言葉です。確かに利害関係のない第三者だからこそ自分をさらけ出すことができる場面はあります。ただ、気をつけたいのは、その第三者が、必ずしも善意ある人とは限らない事です。SNS上のトラブルの多くは、悩み相談から始まっているようです。そして、SNS上の自称のプロフィール等が実際のそれと違う確率は驚くほど高いのも事実です。相手を同じ年代の同性の子だと信じて相談していたら、実は中年の男性だったという事例は珍しくありません。相手の言葉を信じ、自分や友達の

笑顔燦燦



八代小学校だより

裏

(※ 表面から続く)

個人情報や簡単に教えてしまったり、自分の画像を送ってしまったりする事例は小学校でも実際に起きています。しかも一旦SNS上に流れた情報を取り消すことは大変困難で、一度の間違いが大きな事件につながる可能性も高いようです。

「ゲーム障害」って何？

また、インターネット活用については、「ゲーム障害」の問題も深刻化しています。「ゲーム障害」とはゲームへの衝動が抑えられず、日常生活よりゲームを優先してしまう依存症のことです。依存症が進むと、睡眠障害や不安感等の精神的な症状や腰痛、目の痛みなどの身体的な症状が出てきても、ゲームをやめられず、昼夜逆転の生活になったり、多額の課金をつぎ込んだりするだけでなく、ゲームのやせさせようとする家族への暴力へつながる事例もあるようです。小学校では、この問題が一番影響が



SNS社会にどう向き合うの？



確かに、スマートフォン等の携帯端末は、緊急時の連絡に役立ったり、子供たちの位置情報を確認できたりする安全面の利点もあります。また、これからの情報化社会においては、PCや携帯端末を活用することは必要不可欠なものとなることでしょう。それだけに、携帯端末を持つことの有用性と共に、ネット社会とつながる危険性や依存症の恐ろしさも同時に学ぶ必要があると考えさせられました。

みなさんのご家庭ではいかがでしょうか？単にこどものスマホの使用を制限するのは簡単ですが、子供は不満を抱えて別の問題に繋がる可能性もあります。ただ使わせないだけでなく、なぜスマホの使い過ぎがよくないのか、子供がどういう風にスマホを使いたいのか話し合うことが親子関係を健全に保つためにも重要です。もちろん話し合いだけでは管理しきれない部分もありますが、制限をかける際も話しあって、なぜ制限をかける必要があるのかを家族で十分納得することも重要です。

家族が集う冬休みです。是非、携帯端末の活用のルールやインターネットの利用法などを、話題にしていただ